



Subaru

男声合唱団 ニュース№694

19. 6. 18

## 13回コンサート予定曲と19年合発曲を 引き続きレッスン！

6月16日

□ 6月16日(日) 14:00～17:00 昂定例レッスンが開催されました。

佃さんの体操・吉岡さんの滑舌訓練・千秋さんのヴォイストレーニングにはじまり、本並先生の指揮で、まず「昂はうたう」(千秋昌弘作詞・森二三作曲)をレッスンしました。「昂はうたう」は昂の初めての作曲で、昨年8月に第1稿を作詞作曲。その後作詞・作曲者で推敲を重ね、第13回コンサートの第3部の最後の曲として歌おうというところまで来ました。レッスンを重ねて「昂の歌」にしていきましょう！



休憩・連絡事項の報告をはさんで、引き続き、本並先生の指揮で、「方正の青い空」と「U Boj!」をレッスンしました。2曲ともアカペラ・男声4部の新曲での挑戦です。13回コンサートでの「昂の新しい魅力」を聴衆の皆さんに聴いていただくことになりましょう！

最後に、今年の合発曲「日々草」「朝露」を、本番に向けて細部をチェックし、集中力を出して復唱しました。ピアノ伴奏は森二三さん。参加者は全31名でした。(なお、副指揮者の伊藤さんは「全国指揮合唱講習会」(6/14～6/16 日本うたごえ協議会主催 長野県松本市)に研修・出張されました。)

「昂はうたう」の歌詞の変更

4 1～4 2小節:「Ah Ah AhAhAhAh-----」⇒ 「Ah Ah うたおうー」へ

「U Boj!」の歌詞の変更

原語の歌詞は1番・2番とありますが、1番を2回繰り返して歌います。2番は歌いません。

## 連絡事項

### (1) 昴の市内南部合唱発表会：7月28日(日) 鶴見区民センター

参加団体：14 本番9番目(14:06～)選出：5団体+前回シード2団体、交流・小編成・オリジナル計5団体 要員：ドアマン(吉岡)、審査員(大島) 参加費：700円

### (2) オリジナル発表会 9月22日(日) ビアーレ大阪(本町)

「方正の青い空」「昴はうたう」の2曲で団として参加します。2曲とも練習の途中であり、発表までまだまだの段階ですが、昴としての作曲を大阪の合唱団として発表する機会です。参加できる方向で努力しましょう！

### (3) 日本のうたごえ祭典2019(京都祭典)の出演について

「音楽会Ⅲ」(テーマ：平和のバトン)で「労働者の合唱：歌劇沖縄(男声合同)」で昴は参加します。

### (4) 大阪のうたごえ祭典(2010年2月23日 フェニーチェ堺)の企画案が発表されました。

なお、京都祭典・大阪祭典については、その詳細は後日のニュースでお知らせします。

### (5) 2019年昴総会の開催について

2019年8月11日(日)～12日(月・休)：新大阪ユース

1年の昴の総括と今後1年の昴の活動方針を決める大事な総会です。各自の予定に入れてください。なお、議案書づくりに関係各位はご協力お願いします。



## 昴13回コンサート コーナー

● 13回コンサートの第2部出演(ゲスト20分)を依頼していましたナターシャさんはご本人の健康上のご都合により、出演辞退の連絡がありました。あらたに「音登夢(おととむ)」に依頼しました。快諾です！ **バイオリン・チェロ、コンサートの音楽集団「音登夢(おととむ)」**

**Welcome to Ototom Music World** ヴァイオリン(木村直子さん)とチェロ(木村政雄さん)のデュオホームページを検索、ご覧ください。 <http://ototom.com/>

● 「方正の青い空」関係のニュース



## 「方正」について

(岡邑さんから投稿いただきました)

広島・長崎の原爆で21万人、沖縄戦では19万人もの人々が犠牲になりました。

しかし中国の満州で22万5千人もの人が犠牲になった事はあまり知られていません。

この「方正」の歌は、あまり知られていないその歴史の一コマに光りをあてたものです。

第2次世界大戦の終戦間際、ソ連軍が参戦、関東軍は開拓民を置き去りにして逃亡しました。

満州の中で犠牲者がもっとも多かったのが「満蒙開拓団」と「満蒙義勇隊」で合わせて32万2,000人の内8万人が犠牲になりました。

もともと中国の土地である旧満州に国策として送り込まれた開拓民はソ連の参戦、敗戦の報せで逃げ惑いました。零下40度という酷寒にさらされ、飢えと栄養失調、発疹チフスなどでこの方正で亡くなったのです。

それから数年、累々たる白骨の山を見た残留婦人が埋葬したいと申し出、その声はやがて、周恩来首相に届き許可されました。

墓石はイタリア製の花崗岩で有名な書家が「方正地区日本人公墓」と碑銘を刻みハルビンから2日かかりで運ばれました。日中が国交を回復する10年も前の事です。

文化大革命の時、紅衛兵たちが、この墓を破壊しようとした。しかし黒竜江省政府は「これは日本軍の墓ではない。日本の庶民の墓である。彼らに罪はない」と紅衛兵の要求を退けました。その後も、墓守をおき、長年にわたって日本人公墓を守り続けてくれているのです。

中国で唯一の日本人公墓には5000人近い死者が眠っています。そしてこの公墓は黒竜江省の山間地に今日も静かにたたずんでいます。



1940年の満州の人口		合計	41,080,927人
満州人(漢族、満州族)	38,885,562人	日本人の中に朝鮮人を含む。	
日本人	2,128,582人	朝鮮人の中に台湾人を含む	
その他白系ロシア人含む	66,783人	日本人のみは819,582人	

●今日、「星火方正」5月号に次の記事を見つけました。長野県の「満蒙平和記念館を訪れて」です。長野県からは日本で1番多くの方が満蒙開拓団に送り出されています。

記念館の寺沢館長はブログで

「2016年11月17日天皇、皇后両陛下が記念館を訪れた。・・・ご来館は両陛下の『強いご希望』によって実現・・・両陛下は満蒙開拓という史実に対して国民のみなさんにもう一度目を向けてほしいという願いの元にご来館くださったものと思います。・・・」しかし、テレビや新聞の報道は大きく無かったとあります。・・・岡邑(2019.6.18 メールにて)



## 私の視点

siten@asahi.com

ほうまさ  
方正友好交流の会事務局長

おるい  
大類

よしひろ  
善啓



### ◆日中友好

## 日本人公墓を知っていますか

ピン市郊外の方正県に建立されていることを知る人はまだ少ない。

もともと中国の土地であった旧満州に国策として入り込んだ開拓民は、ソ連の参戦、それに続く敗戦の知らせと同時に祖国を目指して逃げ惑い、難民、流浪の民と化した。人々は零下40度という酷暑にさらされ、飢えと栄養失調、発疹チフスなどによってこの方正の地で息絶えた。

しかし先の戦争で亡くなった残留婦人や孤児などおよそ5千人といわれる死者たちを葬る日本人公墓が、旧満州の地、黒龍江省ハル

ピン市郊外の方正県に建立されていることを知る人はまだ少ない。

とまで届き、日本人公墓の建立が許可された。中国ではまだ日本の侵略に対する恨みが衰えていない1963年、日中が国交を回復する10年ほど前のことである。「一部の日本軍国主義者」と日本を区別する」という新中国の方針に基づいた、階級的観点から公墓を建設してくれたのだらうと、冷やかに言うことは易しい。

ハルビン市の朽ち果てた外人墓地の、所有者がわからない膨大な墓石の中から、一番大きく一番きれいなイタリア製の花崗岩を探し出し、優れた書家に「方正地区日本人公墓」という碑銘を刻んでもらった高さ

3・3メートルの石碑は、2日ばかりで、ハルビンから方正県まで運ばれた。まだ貧しかった中国だが、それでも大金を投じて日本人公墓を建立してくれたのだ。

中国に存在する唯一の日本人公墓である。66年から荒れ狂った文化大革命の時、紅衛兵たちがこの日本人公墓を破壊しようとした。しかし黒龍江省政府は、「これは日本軍の墓ではない。日本の庶民の墓である。彼らに罪はない」と紅衛兵の要求を退けた。

私たちの会は15年ほど前から、「残留婦人の帰国が即、幸せの道につながるわけではない。残留する人々が一番多い方正県に対して

何かできないか」とささやかに活動してきた。その過程で知った日本人公墓は、中国通と呼ばれる人々にも知られていないことに驚いた。

日中両国で屈折したナシヨナリズムが台頭する昨今、民族の憎悪を乗り越えて建立された日本人公墓は、これからの日中関係のみならず、今後の世界のありようを考える時、極めて示唆に満ちた存在だ。長年にわたって墓守をおき、日本人公墓を維持管理している中国に、我々は何ができるのか。国交正常化35年の今、改めて問われているのではないだろうか。

投稿は、〒104・80011朝日新聞声・主張面「私の視点」かsiten@asahi.comへ。電子メディアにも収録します。

(参考資料)

● 千秋さんより、メールにて投稿いただきました。(2019. 6. 18)

「今日、仕事先で、満州の話を偶然聞かしていただきました。体験者が身近におられ、偶然お話を聞かせて戴き、感激し、文章化し送ります。(添付)

なお、昴バリトンの大橋さんから 2019 年 2 月 24 日付京都新聞の貴重なコピーを頂きました。

「女性抑留者 121 人の名簿、ロシア公文書館で発見、過酷な実態、解明端緒に「抵抗せず渡すこと」上官指示、791 部隊看護師ら証言」

地図、旧満州、ハルピン、方正、佳木斯、松花江、ハバロスク、アムール川。くわしくは最寄りの図書館等で新聞の閲覧をお願いします。

ソ連軍が要求した①酒②女に上官から性接待を受け入れるよう指示されたことなどが書かれています。」

(添付の文章)

今日の出来事 千秋昌弘

いつものようにマンション玄関の植栽に水をやっていると  
いつもの時間に、いつものお年寄りが、背中にゲートボールのステイックを意気に担いで歩いてくる。

「こんにちは」

「ああ、こんにちは」

二言三言、言葉を交わすと、思わぬ言葉が飛び出した。

「16才で満洲行つてなあ」

「エーッ！」

「東京と書いてトンキンという処に着いてなあ」

「斉齊哈爾チチハルから牡丹江、寧安という所に行つた。満蒙開拓青少年義勇軍で七千人の処から、三千人の処、三百人の処にも行つた。」

「鉄砲担いで十里、二十里と歩くんや。」

「わしは金沢から行つた。伝令係で山から山へ歩いた。どの山かわからへんに歩いた。ソ連のトーチカがすぐ見えるところまで行つた。」

「開拓団で20丁歩ほど貰つて開墾もした。一畝1000mや。草取りにこつちから行つて、向こうから戻つてきてもう一日や。」

耳が遠いので耳の近くで大声で話さないと会話にならない。

「今、おいくつですか」

「あんたと一緒や(笑) あんた七十台か、わしは九十歳台半ばや」

「ハバロスクで捕虜になって二年ほどいたけど、親切にしてくれた。日本が捕虜いじめるのと、えらい違いや。」

「終戦間際に、気が付いたら関東軍がおれへん。みな先に逃げよつた。」

「寒かつたでしよう」

「寒かつた。」

「食べるものはあつたんですか。」

「わしは本部勤めやつたからよかつたけど...」

九〇歳半ばということで、耳も遠く、トンチンカンの会話も混じつたが、私より少し小柄ながら、

「ゲートボールで一等賞や」

「自転車乗ると息子に怒られる。」

「人間歩かなあかん。あんたも仕事するのは良いことや。頑張りなはれ。」

お名前や、日本にいつどうやって帰つたのか聞きたかつたが、今度会つたら大声で聴いてみましょう。

満洲の話が仕事先で聴けるなんて、嬉しくて忘れぬ間に書いてみた。

2019/6/17、弁天町から15分のマンション路上にて